

CASBEE神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	深江本町NKビル開発 新築工事	階数	地上3階建て
建設地	兵庫県神戸市東灘区深江本町2丁目	構造	S造
用途地域	準住居地域、第1種住居地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2023年8月18日
敷地面積	1,049 m ²	作成者	渡部 雅幸
建築面積	679 m ²	確認日	2023年8月21日
延床面積	2,143 m ²	確認者	渡部 雅幸



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.4

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.0

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画 Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 3.0	建築物の耐震性等 Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.0 Q-2/2.4 信頼性 2.0	まちなみ・景観への配慮 Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 2.0
配慮の概要 特になし。	配慮の概要 地震を考慮し、耐震クラスB及び非常用発電機やキュービクルの屋上設置とした。	配慮の概要 敷地周囲に緑地を配置し、周辺環境に配慮した。
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
深江本町NKビル開発 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.4
Q1 室内環境							0.40		-	2.6
1 音環境						2.6	0.15	2.6	1.00	2.6
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音						3.0	0.40	3.0	0.40	
1 開口部遮音性能						3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境						2.6	0.35	2.6	1.00	2.6
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温						3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能						3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						2.7	0.25	2.8	1.00	2.7
3.1 昼光利用						4.2	0.30	2.4	0.30	
1 昼光率		共用部の昼光率: 3.30%				5.0	0.60	2.0	0.60	
2 方位別開口						-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						1.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御						1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境						2.3	0.25	2.7	1.00	2.4
4.1 発生源対策						3.0	0.50	3.0	0.63	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気						2.0	0.30	2.3	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能						3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理						1.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御						1.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.8
1 機能性						2.2	0.40	3.8	1.00	2.9
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		個室14㎡以上/床				3.0	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応						3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観						3.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						3.0	-	-	-	
3 内装計画						1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理						2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.5	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		厨房排気ダクトにステンレスダクトを使用				4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管にPE管、排水管にVP管を使用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						1.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			2.9	0.30	2.4	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり			2.2	0.30	1.8	0.50	
1	階高のゆとり		1.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	共用部の壁長さ比率=0.27	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	更新性を考慮し、ケーブルラック、空配管を使用	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	更新性を考慮し、空配管を使用	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.68	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.84	2.8	0.50	-	-	2.8
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		グリーン調達品目(床タイル)、エコマーク(ビニル床材)	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		内装の壁・天井はLGS下地を用い、仕上材が躯体とは容易に分別可	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.5	0.20	-	-	2.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.3	0.70	-	-	
1	消火剤		2.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		2.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		CO2排出率=87%	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策がイライン、広告物照明における配慮事項の過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	